

知床半島における海鳥類の繁殖分布 モニタリング調査 1997-2004年

福田佳弘

099-4335 斜里町ウトロ東 429, 知床海鳥研究会

Breeding Distribution of Sea Birds in Shiretoko Peninsula, 1997-2004

FUKUDA Yoshihiro

Shiretoko Sea birds Research Club, 429 Utoro-higashi, Shari, Hokkaido 099-4335, Japan. murrelet@d1.dion.ne.jp

はじめに

知床半島では、これまでの調査の結果、ケイマフリ *Cephus carbo*・ウミウ *Phalacrocorax capillatus*・ウミネコ *Larus crassirostris*・オオセグロカモメ *Larus schistisagus* の4種類の海鳥が繁殖していることが解かっている(福田 2001)。これらの繁殖地は「知床」の沿岸であり、観光船やプレジャーボートの航行が繁殖に悪影響を与えている可能性がある。このことから生息数の実態とその変動を把握するため1997年から2004年にかけて調査を実施した。

調査方法

1) 海鳥の繁殖分布調査(ケイマフリをのぞく)

調査地域は1997年から2002年は知床半島の斜里町側のウトロ港から知床岬、2003年・2004年は知床半島全域の斜里町ウトロ港周辺から羅臼町相泊までの地域とした。

調査時期は、海鳥類の抱卵から育雛の期間である6月下旬から7月上旬とした。

調査方法は、相泊から知床岬は船による海上からの調査、知床岬周辺の文吉湾・啓吉湾は陸上、文吉湾からプユニ岬までは船による海上からの調査、フレベの滝周辺とウトロ港周辺(オロンコ岩・ゴジラ岩)は陸上からの調査を行った。また、ウトロ港周辺の三角岩のウミネコ繁殖地については接近するとウミネコが飛び立つためカウント困難なこと、また繁殖数が多いことから海上からデジタルカメラで繁殖地全体を撮影し、画像から営巣地を解析して営巣数をカウントした。なお、調査範囲を便宜上約5km間隔でA域からL域の12区画に分けた(図1)。

2) ケイマフリの海上分布調査

2004年の6月上旬から8月上旬までの期間に16回の海上センサス調査を行った。調査範囲はケイマフリが海上に観察されるウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約1kmの海域を調査した。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に

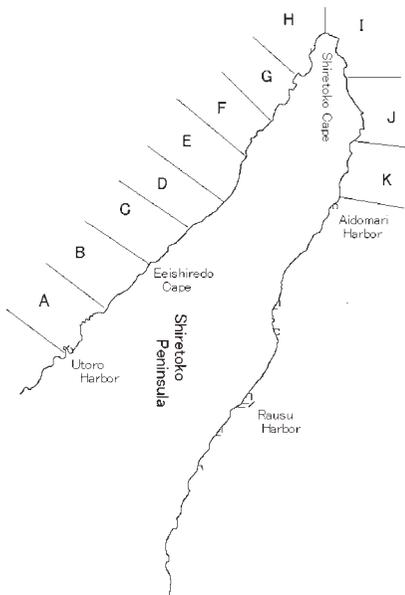


図1. 知床半島における調査範囲。



図2. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* のコロニー (フレベ, Jun. 28, 2003).

表1. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* の区域別繁殖数の変化.

| Area | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A | 599 | 637 | 785 | 569 | 806 | 642 | 806 | 784 |
| B | 139 | 238 | 223 | 354 | 421 | 31 | 109 | 95 |
| C | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| D | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| F | 73 | 271 | 355 | 191 | 21 | 20 | 63 | 16 |
| G | 29 | 68 | 62 | 36 | 0 | 0 | 28 | 20 |
| H | 80 | 257 | 284 | 297 | 69 | 119 | 165 | 153 |
| I | - | - | - | - | - | - | 105 | 149 |
| J | - | - | - | - | - | - | 189 | 303 |
| K | - | - | - | - | - | - | 23 | 77 |
| Total | 920 | 1471 | 1709 | 1447 | 1317 | 812 | 1488 | 1609 |

航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路は約50-100m沖を復路は約600m沖を航行してカウントした。調査には小型船舶を利用し、一定のゆっくりとした速度で航行しながら発見した個体の数・位置などを記録した。

調査結果

1) オオセグロカモメ

1997年から2004年までの調査結果を表1に示す。本種は知床半島で最も多く繁殖している海鳥である(図1)。この鳥の最大の繁殖地は斜里町側フレベの滝で2004年には472巣であった。2004年の営巣総数は2003年と比較して121巣が増加し、特に羅臼側の眼鏡岩周辺で目立って増加した。また、斜里町側のタキノ川の北で新たに12巣の営巣地ができた。2001年以降F域で減少しているのはカバルワタラでの営巣数が減少しているからである。



図3. 2004年6月26日にみられた三角岩のウミネコ *Larus crassirostris* コロニーにおける何者かの捕食者による被害。



図4. 同上。

表2. ウミネコ *Larus crassirostris* の区域別繁殖数の変化.

| Area | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A | 94 | 280 | 346 | 612 | 772 | 159 | 226 | 122 |
| B | 18 | 114 | 54 | 26 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| C | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| D | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| F | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| G | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| H | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| I | - | - | - | - | - | - | 0 | 0 |
| J | - | - | - | - | - | - | 0 | 0 |
| K | - | - | - | - | - | - | 0 | 0 |
| Total | 112 | 394 | 400 | 638 | 776 | 159 | 226 | 122 |

2) ウミネコ

1997年から2004年までの調査結果を表2に示す。1997年にはじめて繁殖が確認されて以来、これまで繁殖数・繁殖地域とも安定していない。1997年から知床五湖の断崖とフレベの滝で

繁殖が確認されていたが、2002年以降知床五湖の断崖では確認されていない。2003年にウトロ港に近い三角岩で新たに190巣が確認された。2004年6月10日には118巣の営巣が確認された。しかし、6月26日には、雛1羽が確認されたが、ほとんど

の巣には雛や卵が残っていなかった。何者かに捕食された卵や雛の死体が残存する巣もあり、コロニーは壊滅的状况であった(図3, 4)。三角岩はウトロ港と陸続きでありノネコやキツネなどの捕食者が容易に侵入できる場所である。今後、ウミ



図5. ウミウ *Phalacrocorax capillatus* のコロニー (フレベ, Jun. 28, 2003).



図7. ケイマフリ *Cepphus carbo* のコロニー (岩尾別周辺, Jul. 9, 2004).



図6. ウミウ *Phalacrocorax capillatus* のコロニーに侵入するヒグマ (蛸岩の対岸, Jul. 19, 2002).

ネコのコロニーがどのように変化していくのか注目したい。

3) ウミウ

1997年から2004年までの調査結果を表3に示す。繁殖数は激しい増減を繰り返しているが、その要因については不明である。繁殖地域は、プユニ岬からエエイシレド岬と羅臼側・斜里側とも知床岬周辺の断崖に集中して繁殖する(図5)。2004年は2003年に比較し100以上営巣数が減少した。特に、斜里町側のプユニ岬から岩尾別の間で大幅に減少した。また、2002年7月19日には峭岩対岸の岩棚の営巣地にヒグマが侵入しヒナを捕食する行動がはじめて観察された(図6)。ヒグマによる海鳥類の営巣阻害は我が国では知られていないが、繁殖に影響を与えている可能性もある。

4) ケイマフリ

2004年に16回の海上センサスを行った結果を表5に示す。カウント数の最高羽数は7月9日の148羽であった。

海上での分布は海岸線から約100m以内の沿岸に最も多く生息していた。海域別では、プユニ岬周辺が最も多く生息し、次いで象の鼻周辺、岩尾別周辺から五湖の断崖にいたる地域で多く生息し

ていた(図7)。また、繁殖地は、プユニ岬の11巣と岩尾別台地の崖の12巣そして五湖の断崖の7巣で全体では36巣であった。しかし、崖の隙間など確認しにくい場所に営巣するため全体を把握するのは困難であり、実際にはこれ以上の数が営巣していると考えられる。

まとめ

1997年より知床半島斜里町側で海鳥の繁殖分布を開始し、2003年からは課題であった羅臼町側での調査もおこなうことができた。その結果、ウミウやカモメ類では年による営巣総数の変動がみられ、特にウミネコで大きかった。また、ウミウやウミネコでは営巣地ごとの営巣数の変動や消失がみられた。

また、2002年にはヒグマによるウミウのヒナへ捕食が観察された。この場所は断崖の岩棚という侵入しにくい場所であるため、より侵入が容易な場所で他の海鳥のヒナや卵を捕食している可能性も高い。今後、ヒグマが海鳥類の繁殖に与える影響の調査も必要であると考えられる。

「知床」は世界遺産の候補地となり今後観光客の増加にともない観光船などの航行も増えることが予想される。その影響が最も懸念されるのがケイマフリである。この鳥の主な生息海域は、ウトロ港周辺からエエイシレド岬に至る海域で、観光船等の航行が最も多い地域でもある。今後、さらに生息海域の細かな分布や高利用域などを明らかにし、この鳥への影響を軽減する利用方法を策定する必要がある。

このモニタリング調査は今後も同様の調査を継続したいと考える。なお、この調査は知床財団から協力を得た。ここに記して謝意を表す。

引用文献

福田佳弘, 2001. 知床半島斜里側における海鳥の繁殖分布1997・1998年. 知床博物館研究報告22:69-74.

表3. ウミウ*Phalacrocorax capillatus*の区域別繁殖数の変化.

| Area | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A | 270 | 194 | 200 | 214 | 157 | 63 | 231 | 97 |
| B | 140 | 159 | 162 | 209 | 0 | 114 | 229 | 137 |
| C | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 0 |
| D | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| F | 44 | 66 | 49 | 67 | 96 | 0 | 14 | 15 |
| G | 2 | 20 | 1 | 23 | 46 | 0 | 0 | 63 |
| H | 106 | 163 | 106 | 107 | 79 | 48 | 64 | 64 |
| I | - | - | - | - | - | - | 0 | 54 |
| J | - | - | - | - | - | - | 42 | 37 |
| K | - | - | - | - | - | - | 0 | 0 |
| Total | 562 | 602 | 518 | 620 | 378 | 305 | 580 | 467 |

表4. 2004年ケイマフリ*Cepphus carbo*海上センサスの結果.

| date | 2004 Jun | | | | | | Jul | | | | | | Aug | | | |
|------|----------|----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 2 | 4 | 8 | 10 | 19 | 26 | 8 | 9 | 17 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 7 | 8 |
| n | 66 | 46 | 61 | 90 | 92 | 97 | 68 | 148 | 64 | 117 | 107 | 108 | 74 | 62 | 69 | 74 |